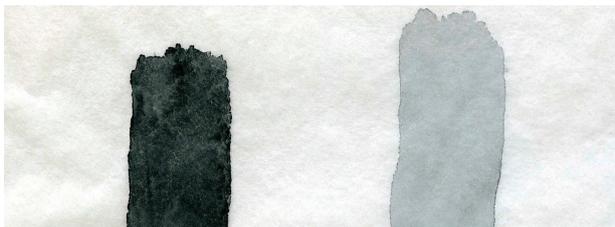




礬水液

どうさえき



礬水引きあり



礬水引きなし

礬水液の使用例：和紙に礬水液を引いた場合（写真：上）は墨や絵具がにじまず定着も良くなり、引かない場合（写真：下）はにじみが起きます。

概要

礬水液（どうさえき）は、日本画の支持体として用いられる和紙や絵絹、板などのにじみ止めに使用される膠液（にかわえき）と明礬（みょうばん）の混合液です。また、箔を押した上に礬水液を引くことで絵具の定着を良くし、銀箔、銀泥の酸化による変色を防ぐ時にも使用します。

和紙や絵絹は吸水性があるために膠液で溶いた絵具を塗ると膠液のみが浸透して絵具は定着しません。礬水液で表面に薄い被膜を作ることにより吸水性を弱め浸透を防ぎ、絵具の定着を良くします。

雲肌麻紙に使用する礬水液は、一般的に水 1000cc、三千本膠 20g（2本程度）、明礬 2.5g の割合で混合し、湯煎することで膠の固体を完全に溶かします。また制作用膠液を薄める方法もあります。35～70度位の膠水に生明礬を少しずつ入れ礬水液を作ります。

礬水液の濃度は、支持体の種類によって変えます。薄い和紙（美濃紙）や絵絹などは2倍程度に礬水液を薄め使用します。杉板は比較的濃い礬水液を引きます。

礬水液に使われる明礬は酸性で、和紙の劣化の原因とされ、その明礬の量は少なければ少ない方が良いとされます。

礬水液をつくる



手順1. 膠液に1リットルの湯(35～70℃程度)をそそぎ、かき混ぜます。



手順2. よくすり潰した生明礬5グラムを、薄めた膠液に少しずつ入れます。



手順3. 生明礬の粒子がなくなるまでよくかき混ぜます。